日本精神保健社会学会
THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY
＜日本学術会議協力学術研究団体 No.1001＞
ニュースレター第 78 号
発行人:宗像恒次　編集人:塩谷育子
2023 年 7 月 15 日
事務局: 東京都豊島区西池袋 2-39-8
ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局: 担当/村上
TEL : 03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240
E-mail:murakami@t-mental.co.jp

## 第 29 回 日本精神保健社会学会学術大会に向けて

第 29 回学術大会実行委員長
服部万里子
（npo 渋谷介護サポートセンター理事長、服部メディカル研究所　所長）

2023 年 11 月 23 日に予定の第 29 回日本精神保健社会学会学術大会は下記テーマで行います。日本で初めて新型コロナ感染者がでた 2020 年 1 月から感染症法の位置づけが 2 類から 5 類に変わった 5 月 8 日まで、日本の感染者計は約 3365 万人、死者は 7 万４千人になりました。

緊急事態宣言が出され感染対策と合わせて移動、外食、飲食などの制限が行われ、人々や社会に大きな不安を与え、「身体的機能低下」が重なり「コロナ鬱」などが発生しました。完全に終息したとは言えない中での今年の大会も、昨年同様、zoom 開催となりました。

このような社会的不安がある中で、児童虐待や高齢者の虐待は過去最高になり、不登校の小中学生は過去最高で、15 歳～64 歳の引きこもりは、この年齢層の２％で、「引きこもりの原因」をコロナウイルスの流行を 5 人に一人が挙げています。

仕事への影響や経済への打撃は今後も続きます。だからこそ人の心、気持ち、思いが社会の困難に向き合う弾力性が求められます。地域や、学校や職場で様々なテーマにどのように向き合ってきたのか、メンタルの弾力性をどのように育んできたのか、ともに考え、

研究を深めていきましょう。

今回の学術テーマはメンタルのレリジエンスを育む社会をテーマにしました。

基調講演では当学会宗像会長（ＳＡＴ情報認知行動療法研究所所長/筑波大学名誉教授）より学術的で豊富な知見を交えテーマを社会学的に掘り下げていきます。シンポジストは看護師さんや企業の心理相談員など多様な分野、実践から論議を深めてまいります。是非ご参加ください。

感染対策は継続しますのでご協力をお願いいたします。

## 第 29 回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ（第１報）

今年度の学術大会・総会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。研究発表もオンラインでの発表になります。

- 開催日時：2023 年 11 月 23 日（木）祝日、10 時 00～17 時 00 分
- 大会テーマ： メンタルレジリエンスを育む社会

①基調講演　宗像 恒次 学会長

（筑波大学ベンチャー株式会社 SDS 代表、筑波大学 名誉教授）

②シンポジスト

○山野内　靖子 氏（東京情報大学看護学部准教授）

○山本　潤一　氏（日本メンタル再生研究所所長）

○野本　薫史　氏（日本精神保健社会学会監事

朝日パーソナリティー・センター代表）

- ツ　ー　ル：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催
- 参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1ページ右上に記載）にて、**氏名、メールアドレス、電話番号を記載**のうえ、お申込みください。
- 参　加　費：一般 4,000 円、学会員 3,000 円、学生 2,000 円
- 参加振込み： **2023 年 11 月 13 日（月）**までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日での参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

- 振込み先：ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

## 基調講演のご案内

「メンタルレジリエンスをはぐくむ社会」

―精神的課題を自ら解決する力をはぐくむ社会モデル―

宗像恒次

（日本精神保健社会学会会長、筑波大学名誉教授）

自分の精神的課題を自ら解決するレジリエンスを持つには、まず①情緒的に安定して、事実を感情的にならず、観察、確認でき、②その事実の原因を自ら探せて、③同じ問題を繰り返さない**問題解決力**をもてることである。それには家族など周りの人と気持ちが通じ合える**情緒的支援のもてる社会環境**が必要になる。

そのような社会環境には、妊娠、誕生、生育環境に適した争いのない、穏やかな地域に何世代も住み、**親子の良好な関係がもたらす社会環境**が必要になる。

このような社会環境の中で自分の精神的課題をみずから解決して自己成長するレジリエンスをはぐくむ社会モデルについて、諸事例を通して検討してみたい。

## ★研究発表の募集★

1．発表の申込み

発表希望者は、演題名と学会指定の抄録を添え、代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）を記載のうえ、**10 月 5 日（木）**までにお申込みください。抄録の定型フォーマットは、本学会のホームページに**「実践報告型」**、**「科学研究型」**をアップしています。発表形式に応じていずれかを選択し、**A4、1 枚**にて記載してください。

2．申込み方法

学会事務局にメールにてお申込みください（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）。

3．採択の可否

採択のご連絡は、**10 月 20 日（金）までに発表代表者にメールにてご連絡します。**

なお、オンラインでの発表になりますので、発表者は 6 名になります。

4．発表要件

1）学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2022 年度の年会費（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）と 2023 年度の年会費（2023 年 10 月 1 日～）の納付済みであることを要件とします。

2）研究発表の参加費

研究発表の参加費は、**別途 2,500 円**が必要となります。振り込みは、**11 月 13 日（月）**までにお願い致します。

3）振込み先

ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

振込名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。

## 2023年度「学会奨励賞」募集のお知らせ

今年度も「学会奨励賞」を募集いたします。エントリーを希望される方は、本学会ホームページの「日本精神保健社会学会奨励賞内規」の選考基準を充たしているかご確認のうえ、学会事務局にお問い合わせ下さい。ご希望の方に必要書類をお送りしますので、書類作成のうえ、9月末日までにご応募ください。

### 機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol.29」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

1. 原稿締切：2023年8月18日（金）

   多くの方の投稿をお待ちしています。

2. 送付方法および送付先

   ＊郵送のみの受付となります。

   詳細は、本学会ホームページの投稿規定をご確認ください。

## 理事の現場から -窪田研究室の挑戦-

○　窪田辰政

（静岡県立大学）

静岡県立大学に赴任し身体運動科学分野を担当して9年目を迎えました。担当科目では、私の専門分野である健康管理学や健康運動心理学の観点を活かした授業を行っています。また研究室としては、健康の維持・増進を図り、社会環境と良好な関係を構築する上で必要な知識・スキルの習得や、運動実践による心理的効果などに関する調査研究及び教育を行っています。

私は、本学全体での身体運動科学の通年 17.5 本の授業運営に加え、体育関連の用具・施設の管理、非常勤講師のコーディネート、体育会部活動活性化のための支援活動なども一手に担当しております。

大学における体育授業は、身体活動を習慣化する最後の機会となります。日々の授業では、運動技術の習得のみならず、体育を一つのツールとして、学生が自信やライフスキルを身に付けられるような実践を行っています。授業の内容や進め方を工夫することで、体力向上・技術習得はもちろん、メンタルヘルス改善の効果も期待できます。また、特に 1 年次における体育授業は「仲間づくり」の場にもなり、大学生活への適応や良好な人間関係の構築のためにも必要不可欠な科目です。

ここ数年では、テニスコートの修繕や新たな部活動設立支援のほか、各施設の利用者説明会開催、施設毎に使用上の注意看板を作成することで、本学施設をより気持ちよく利用していただけるよう貢献して参りました。また夏期には、アーチェリーやフェンシング、カヌー&サップなどの新しいスポーツ種目を体験できる機会を設けました。このような新しい取り組みを通じて、本学の学生・先生方に身体運動科学の考え方を広げられたと感じています。

身体運動科学分野は、今後もよりよい授業作りはもちろん、積極的なスポーツ環境整備に継続的に取り組むことで、地域に貢献し未来を担う学生が本学から羽ばたいてゆける環境づくりに努めて参ります。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。

＊その他の経歴･研究業績の詳細は､静岡県立大学教員データベース及び CiNii Research 等をご参照ください。

## 会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えらえています。**2022 年度の年会費は、2022 年 10 月 1 日**から **2023 年 9 月 30 日**の期間です。また、**2023 年度の年会費は、2023 年 10 月 1 日**から **2024 年 9 月 30 日**の期間です。2022 年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願いします。会費、振込み先は以下の通りです。

会費　　通常会員　5,000 円　　学生会員　3,000 円

振込み先　ゆうちょ銀行　加入者名　日本精神保健社会学会　00170-6－613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と 2 年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

# 日本精神保健社会学会入会のご案内

## 1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきています。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見いだし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

## 2. 指針

①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。

②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。

③国際的にも仲間づくりをすすめていく。

④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。

⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。

⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

## 3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021　東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内
日本精神保健社会学会事務局　担当：村上
TEL: 03－3986－3220　FAX: 03－3986－3240　E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金：5,000 円

会　費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036　　加入者名:日本精神保健社会学会

※　E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

---

# 日本精神保健社会学会入会申込書

| | | | |
|---|---|---|---|
| フリガナ<br>氏　名 | | 生年月日 | 西暦　　年　　月　　日　　歳<br>（ 男 ・ 女 ） |
| 会員種類 | 通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員　を希望する | 連絡先 | 所属・自宅　を希望する |
| 所属名<br>及び住所 | 〒<br>TEL.　　FAX.　　E-mail. | | |
| 自宅住所 | 〒<br>TEL.　　FAX.　　E-mail. | | |
| 所 属 系<br>（○印） | 社会学･文化人類学･経済学･哲学･心理学･社会福祉学･教育学･看護学・医学･保健学･栄養学･体育学･地理学<br>行政学･政治学･その他（　　） | | |
| 関心領域 | | | |